

◎自由発表（第1会場）【座長・司会】大橋 忠司（関西地区研究会副会長）

【演 題 等】「1人1台端末を活用した心の健康観察～全ての児童生徒を対象にしたプロ
アクティブな生徒指導～」

【講演・発表者】京都府教育庁指導部学校教育課 指導主事 山下 英孝

・発表概要

都道府県教育委員会が作成した心の健康観察ツールの活用を軸にした「1人1台端末を活用した心の健康観察とプロアクティブな生徒指導」についての発表であった。児童生徒が日々の心身の状態を端末で記録することで、教員が早期にリスクを把握し、迅速な支援につなげる仕組みを紹介。使用する学習eポータル内の「毎日の記録」機能を活用し、心身の状態、安全安心な風土、育みたい力の3つの観点から児童の状況を把握する。従来の「深刻化を防ぐ」指導から一歩進め、子どもたちの成長を促す「プロアクティブな生徒指導」を目指す姿勢が示された。導入により、児童の自己表現力や教員の対応力が向上し、不登校やいじめの予防にも効果が見られた。

・発表要旨

京都府教育庁指導部学校教育課の立場から、ICTを活用した心の健康観察の取組を紹介した。発表の冒頭では「安全・安心・魅力ある学校」に加え、「安定」の重要性を強調し、安定した環境が子どもの心の安定につながると述べた。

取組では、児童生徒が毎日端末を使って体調や気分、悩みなどを入力することで、教員が早期にリスクを把握し、チームで支援を行う体制を構築。学習eポータル内で「毎日の記録」「曜日ごとの質問」「1週間の振り返り」の三部構成により、心身の状態、安全安心な風土、育みたい力を多角的に把握できるよう設計されている。

質問項目は、京都府の教育理念や学力学習状況調査の結果をもとに作成されており、児童が自分の気持ちを言葉にしやすいよう工夫されている。教員は児童の回答に対してスタンプやコメントで反応でき、交換日記のような活用も可能。教員画面では学校全体や学級ごとの状況を把握でき、気になる児童の変化を視覚的に確認できる。

導入後の成果として、児童の約半数が「気持ちを伝えやすくなった」と回答し、安心して過ごせる環境づくりに寄与。相談方法の選択肢が広がり、自己管理能力の向上にもつながった。教室外からの入力も可能で、教育支援センターや家庭からも支援が可能となった。

教員側のメリットとしては、タイムリーな対応、的確な声かけ、支援の共有が挙げられた。いじめの認知件数は増加したが、発生件数は減少しており、教員の感度が向上したことが要因と考えられる。費用面では「毎日の記録」機能が無料で活用でき、産官学連携による分析支援も受けられる。

最後に、教員の観察力とデータの両輪が重要であると述べ、「このシステムがすべてではない」と強調した。プロアクティブな生徒指導を通じて、安心安全な居場所づくりと魅力ある学校づくりを目指す姿勢が示された。

・質疑応答の概要

Q1 京都府では全ての小中学校・全学年で実施しているのか。

A1 府としては全市町村に声をかけたが、導入は希望制であり、現在は2市町村が実施中。導入していない地域は、既存の取り組みで十分と判断している場合や、効果や負担が不明なため様子見しているケースがある。

Q2 教員の負担感や現場の声について。

- A2 特に低学年の教員から「こんなに悩んでいるとは思わなかった」との声があり、子どもへの理解が深まった一方で、「どれだけ声をかければいいのか」「根拠があるから声をかけなければならないのでは」といった不安もあると聞いている。現場では、システムの導入が教員にプレッシャーを与える可能性もあると考えられる。
- Q3 声かけのタイミングや基準はどうされているか。
- A3 京都府として一律の基準は設けておらず、学校の裁量に任せている。現場の実情に応じて柔軟に対応できるよう配慮している。